

ORTHODOXE

商品プロデューサー&コンサルタント

今野ひろ子さん

人の肌のように呼吸する生きた革こそが真実

コンサルティングルームも兼ねる店内。ウィンドウからは今野さんが独り机に向かう姿も見える。



オリジナルレシピのレザーはカラーバリエにも自信

オーダー用の革サンプル。革はスムースレザーと型押し2種類から選ぶ。「改良を重ねた最高の革」だけに、別素材の注文がない限り他の革を使用することはまずないという。顔料染めは一切行わず、濃い色が出しにくい水染めだけでここまでのカラーバリエーションを実現した。



靴や小物などの革製品をオーダーメイドする「ORTHODOXE」で、商品プロデューサーからオーダー品のコンサルティングまでを手掛ける今野さん。客の持ち込んだイメージをもとに、用途やサイズなど話し合いながらデザインを起し、職人と共に形にしていく。当然、革という素材に対する知識の豊富さも際立つ。

そんな今野さんから見た「良い革」とは、店のオーダー素材としても使用される、植物の渋(タンニン)で鞣した水染めの革だ。国内でも数少ないタンニン鞣しを行うタンナー「栃木レザー」と、長年にわたって意見を交わしながら改良を重ねた革は「ほぼ100%の完成形。安心して人に勧められます」と自ら太鼓判を押すほどのクオリティ。「まるで肌のように呼吸をし、使うほどに味わいが出てくる」「エイジング」する革です。含まれた油分が自然なツヤになってゆきます。でも、あまり放っておくとガサガサに荒れてしまう。だから時々クリームを塗ってお手入れしてあげることが必要です。人間の肌と同じでしょう。

戦後ようやく革を身に着けた日本人は革に関してはまだ素人。今野さんのように本物の革を知るクリエイターがいてこそ、日本人の革への理解が深まってゆくのだ。

客のひとりひとりと納得のいくまで話し合っただけの作りをする今野さん。物腰は穏やかながら根っからの職人だ。ドラマ「黒革の手帳」に登場する手帳の作者でもある。

前面の装飾がファッション的なソフトアタッシュケース「カーヴ」。デザイン性だけでなくビジネスシーンでの使い易さも追求されている。¥250,000



社員証もレザーのケースに入ればスマート。おしゃれなビジネスマンはたとえ社内でも気を抜かないのだ。¥30,000



出張に重宝するネクタイケース。しなやかなのにしっかりと造りが、鞣になりやすいネクタイをやさしくガード。¥50,000

バッグや小物に混じってセンスのあるインテリアがそこかしこに。商品の仕上がりに期待が持てる。



(問)オーソドキシー代官山店TEL03-3780-5876

